



高名なお坊さん（その30）

慈覚大師円仁（西暦794年～864年） 第3代天台座主

天台宗興隆の礎を築き、日本最初の太師号である「慈覚大師」を授けられた。

円仁は早くに父を亡くし、母と兄に育てられた円仁は9歳の時、栃木県の名刹大慈寺の高名な広智という僧に預けられた。

808年、広智に連れられ比叡山延暦寺に入る。唐から帰国したばかりの最澄の弟子となり、教えを受けることになった。

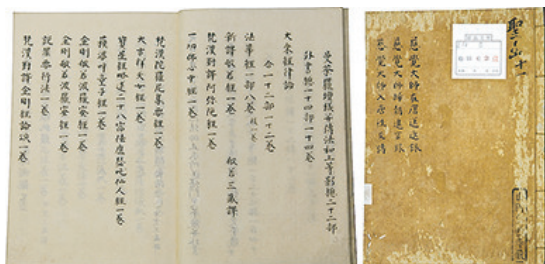
最澄は奈良仏教の反撃と真言密教の興隆という二重の障壁の中で、天台宗の確立に立ち向かう。最澄のもとで円仁は学問と修行に専念する。

最澄が止観を学ばせた弟子10人のうち、師の代講を任せられるようになったのは円仁ひとりであったと伝えられている。

838年、円仁が45歳の時、遣唐船で唐に渡る。最後の遣唐使として唐に留学し、山東省の赤山法華院や福建省の開元寺、中国仏教三大霊山に数えられる五台山で修行する。



慈覚大師円仁



慈覚大師在唐送進目録

唐での9年間で「入唐求法巡礼行記」（全4巻）にまとめて、847年に帰国。

854年、円仁は、それまで17年半、空位であった延暦寺第3代天台座主に任命される。これは勅旨による初の座主任命であった。

864年、円仁は熱病にかかり還浄。円仁の死を悼んだ清和天皇より「慈覚大師」という、日本で初めての大師号が贈られた。



ダーナ奉仕布教



初参式

ありました。このご浄財、全てを東広島組への寄付とさせていただきます。今の時期、田植え等で多忙だったことでしょうか、お参り下さいまして、有り難うございました。

先日の五月十八日（土曜日）、午前中は初参式（善教寺仏教婦人会主催行事）を開催し、午後からダーナ奉仕布教（東広島組主催法要行事）を勤めました。

「初参式」とは、お子さまの誕生後、初めて仏さまの前で手を合わせ、お祝いすること。生まれたばかりのお子さまも、みるうちに休も心も成長していきます。その最初の時に、お子さまと共に親御さまも仏さまに手を合わせ、生まれたことの意味を確かめて頂く。親として生きる出発点であり、赤ちゃんによって与えられた尊い仏縁であります。

当日は、一歳の赤ちゃんがお参り下さいました。この初参式、記憶としては覚えていないでしょうが、大人になって、寺の本堂へお参りした時、「なんとなく懐かしい気がするな」という思いを抱いて頂けるかな？？

昼からのダーナ奉仕布教は、善教寺の定例法要では無く、東広島組内で開催寺院の当番が廻ってきた時に法要を勤めます。ダーナとは、古いインドの言葉で「慈しきをもつて、広く他に施すこと」。梵語ダーナを漢字では「檀那（だんな）」と訳し、「布施」の意味があります。お陰様で、天気が良かったせいか、多くのご参拝を頂き、有り難い事に、多額の布施が

ゆかりの寺シリーズ その33

朝倉義景 ゆかりの寺
「大龍山洞雲寺 (曹洞宗)」



朝倉義景は、越前国一乗谷（福井県福井市）を本拠地にした守護代出身の戦国大名。1573年、織田信長との戦いで敗れ、大野の洞雲寺に入り再起を期したが、従兄弟の朝倉景鏡に襲われて自害。

洞雲寺は康正元年（1455）元勅禅師が開山。

越前の守護大名となった朝倉氏は一乗谷に城を築いて、戦国時代の越前を統括し大いに栄えた。



洞雲寺本堂

洞雲寺は朝倉氏の外護を得て護持される。

1575年、洞雲寺から赤根川の対岸に大野城が築かれ、江戸時代を通じて大野藩が設置され、静かな佇まいをみせる洞雲寺である。



朝倉義景



洞雲寺参道

「宗祖聖人月忌」

門信徒祥月命日法要」（善教寺本堂）

六月 十六日（日）午後一時半～

*毎月十六日に本堂において勤めております。

「安居会（夏の法要）」（善教寺本堂）

六月 二十二日（土）

午前十時～ 朝席

午後一時半～ 昼席

講師 久留島法暁師

（広島市安佐北区落合圓正寺）

「孟蘭盆会法要」（善教寺本堂）

八月 十日（土）

午前十時～ 朝席

午後一時半～ 昼席

講師 中村啓誠師

（本願寺布教専従員）



今後の法要スケジュール

ご 緑 に 感 謝

善教寺ホームページ『緑』 <http://otera.or.jp/>

メール zenkyo@otera.or.jp